

コミュニティケア

2020
年

12

月号

Nursing **now**

看護の力で健康な社会を!

Nursing Nowは、ナイチンゲール生誕200年を機に、看護職が持つ可能性を最大限に発揮し、人々の健康向上に貢献するために行動する世界的なキャンペーンです。日本看護協会は、日本看護連盟と連携し、「看護の力で健康な社会を!」をテーマに、キャンペーンに取り組んでいます。

発行日変更のお知らせ

「コミュニティケア」は、2021年1月号より通常号の発行日を1日から前月5日に変更させていただきます。2021年1月号は2020年12月5日の発行・発売となります。今後とも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

第1特集

事業の維持と拡大 職員を集める効果的な方法

〈総論〉

人材不足解消の決め手は“定着率の向上”／中山 伸雄 10

〈報告1〉

職員の離職要因「残業・腰痛・メンタル不調」をゼロに／廣岡 隆之 15

〈報告2〉

介護業務のタスクシフトなどで離職率は42.5%から2.5%に／脇屋 創 19

〈報告3〉

管理者候補を育成し、訪問看護ステーションの立ち上げを支援
藤野 泰平・〈コラム〉石井 綾乃 22

〈関連論考〉

介護職員を取り巻く現状と離職率が低い高齢者ケア施設の実践例／内田 和宏 28

第2特集

若年性認知症の人の “働く・つながる”場づくり



59 ページ

〈メッセージ〉

認知症とともに生きる / 丹野 智文 42

〈解説〉

若年性認知症の実態 / 田中 悠美子 45

〈報告1〉

当事者団体による活動と看護職への期待 / 鎌田 松代 49

〈報告2〉

若年性認知症の人の希望に沿った再就職支援 / 来島 みのり 53

〈事例1〉

「あしたばネットワーク活動」の実際とこれから / 池田 めぐみ 56

〈事例2〉

地域社会とのつながりを支援「かまくら認知症ネットワーク」 / 稲田 秀樹 59

〈事例3〉

認知症の人と社会とのつながりをつくる / 篠原 真咲 62

コミュニティケア12

2020 December Vol.22, No.14 290号

※本誌では薬品名などの®記号は省略しています。

COLUMN ニュース手帳

株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン Gem Med 編集部	4
地域ケアの今 / 鳥海 房枝 「認知症」になることに備えて	6
〈最終回〉訪問看護師の強い味方 / 長内 秀美 香川県訪問看護ステーション連絡協議会	8



37 ページ

SPECIAL BOOK GUIDE

Nursing Today ブックレット 10・11月刊行の3冊	34
初学の主任・師長、看護師の教材にピッタリ！ 『令和2年度改定対応 診療報酬・介護報酬のしくみと考え方 第5版』 “基本の基本”から学べるわかりやすい入門書！！	66

SERIES

角田直枝の病院と地域を“看護”がつなぐ / 角田 直枝 元気な人を介した地域連携	33
だから面白い訪問看護管理 / 柴田 三奈子 今後の展望	36
訪問の合間に一句 詠んでみる 訪問看護“泣き笑い”川柳 / 寺崎 護	37
困難ケースを解決する スペシャリストの実践知 / 長尾 充子 緩和ケア④ 利用者・家族のありようと生き方を理解し 起きている現象にコミットする	38
日本訪問看護財団からのお知らせ 自然災害の発生に備える ほか	68
全国訪問看護事業協会からのお知らせ 「～地域を支える訪問看護～取り組んでみましょう！ 運転・駐車ルのルールやマナー」のリーフレット ほか	70

BOOKS ● 72

編集部行き FAX シート ● 73

2020 年総目次 ● 75

次号予告 / 編集後記 ● 80

本誌内容の無断複写・転載は著作権法で禁じられています。本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込み、および送信（送信可能化権を含む）・上映・譲渡に関する許諾権は、株式会社日本看護協会出版会が保有しています。
★本誌掲載の URL や QR コードのリンク先は、予告なしに変更・削除される場合があります。

JCOPY (出版者著作権管理機構 委託出版物)

本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、その都度事前に一般社団法人出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、email: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

〈総論〉

人材不足解消の決め手は “定着率の向上”

社会保険労務士として、介護・福祉施設や医療機関などの人材不足の窮地を救ってきた中山伸雄さんに、
職員を集める上で経営者が理解しておくべきことや自事業所の評価方法、成功例を紹介いただきます。

第1特集

事業の維持と拡大

職員を集める効果的な方法

医療・介護業界において 人材を確保できない現状

コロナ禍において世の中の雇用情勢は一変したとはいえ、医療・介護業界では、人手不足が続いており、すでに「採用できない」ことが一番の悩みごとになっている事業所も多いのではないのでしょうか。「求人を出しても応募がない」と嘆いている経営者の悩みを聞く機会が増えていますが、「人が来ない」のではなく、「働く人がいない」というのが、今の人手不足時代の現実です。

例えば、総務省統計局がまとめた新成人の人口推移を見てみると、2000年の新成人の人口は164万人であるのに対し、2015年には126万人となっています¹⁾。わずか15年の間で、新成人の人口は約75%近くまで減少しました。さらに、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、今後の新成人人口は減少傾向で推移し、2025年には110万人を下回ると見込まれてい

ます²⁾。

一方、高齢化によって医療・介護を必要とする人は増えていくわけですから、「人材確保の競争」はより厳しくなります。そのため「求職者に選ばれる事業所」づくりをしていかなければなりません。

介護の分野では、2019年に「特定技能」制度が導入され、外国人労働者の増加による人手不足の解消に期待が持たれていましたが、コロナ禍において新規の受け入れは事実上ストップしています。全職種^{*}で「(2019年度から)5年間で最大34万人」を目標としていましたが、2020年2月末現在で3000人弱³⁾と、完全に期待外れの状況となってしまいました。受け入れを検討、進めていた高齢者ケア施設には大きな打撃となったのではないのでしょうか。

いずれにせよ、人口構造的に「人材確保」が重要な経営課題となる状況が続くことは、間違いありません。

では、今後、生き残っていくためには、どのような考え方を持って具体的にどのように人材



社会保険労務士法人 Nice-One 代表
社会保険労務士

中山 伸雄
(なかやま のぶお)

生命保険会社の営業、労務管理システム会社を経て2008年に社会保険労務士として独立。現在は、就業規則や人事評価制度の設計等を手がけ、人事労務に関する相談実績は500社以上。

を確保していったらよいのでしょうか？

地域やそこでの事業所の知名度、職員数や現状の離職率等によって異なるため一概には言えませんが、ここでは一般論を述べます。

大切なことは「人が定着する事業所」をつくること

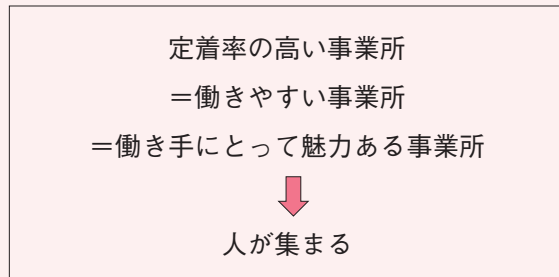
当たり前の話ですが、人材を確保するためには、次の2つの対策が必要です。

- ① 応募者を増やすこと
- ② 定着させること

では、どちらにコストと労力をかけるべきでしょうか？ これは②になります。人手不足という目先の課題のため、「人が定着しない」と嘆くばかりで、①にコストや労力をかけている事業所を散見します。これは人材確保に困っている事業所の特徴ともいえます。該当する事業所は、まず定着率の向上に真剣に取り組んでみてはいかがでしょうか。

実際に、「人が定着する事業所」に本気で取り組んだことで、人手不足を解消した事業所をたくさん見てきました。もちろん事情はさまざまですから、「定着率はよいけれど応募者が来ない」「事業拡大のため今以上に人がほしい」といった事業所もあるでしょう。しかし、逆にそういう事業所は「土台」ができていますので、「定着率の高い事業所」を大きくPRすることで、応募者を増やせるかもしれません。

いずれにせよ、「労働力人口が減っており、必要な労働者数が絶対的に足りない」わけですから、定着率というのは重要な指標となります。



この仕組みを整備することが大切です。では、具体的には、どのような取り組みをすればよいのでしょうか？

自事業所の分析方法

定着率のよい事業所は、経営者と職員の間信頼関係が構築されています。そのためには「経営者と職員がともに働きやすい事業所」づくりをする必要があります。

まずは自事業所の分析の一助として、^{12ページ}表1のチェックリストで雇用管理状況を確認してみましょう。これらを参考に、人材を確保する上で自事業所に足りないものを明らかにすることが大切です。

私がこれまでに携わった事業所の中には、見事、人材確保に成功したところが数多くあります。いずれも、定着率の向上が功を奏しました。次に具体的な人材確保策として、実際の事例を紹介します。

評価制度と評価面談を見直し、人手不足を解消

ここで紹介するのは、100人程度の職員のいる特別養護老人ホームです。周囲に同じような

* 介護、ビルクリーニング、素形材産業、産業機械製造業、電気・電子情報関連産業、建設、造船・船用工業、自動車整備、航空・宿泊、農業、漁業、飲食品製造業、外食業の計14分野

好評発売中！
2020年11月
臨時増刊号

“足”を看る
浮腫・糖尿病足病変・
爪の変形と白癬・乾皮症

特集 認知症を取り巻く課題と看護

高齢化が進展する日本において、認知症者は年々増加しており、2025年には730万人にのぼると予測されています。高齢者の約5人に1人が認知症になる時代は目の前に迫っているといえるでしょう。本特集では、認知症になった医師からのメッセージを紹介するとともに、認知症者を取り巻く課題・生活上の困難を整理し、看護職の役割について考察します。

● コミュニティケア 2020年12月 Vol.22 No.14 290号

12

編集後記

- 最近の息子のブームはハイタッチ。老若男女問わず、道や店ですれ違う見知らぬ人にさえハイタッチを求めることがあります。今のところ皆さん、「こんなときだけいいのかしら」と快く受け入れてくれますが、1歳児にソーシャルディスタンスを教えるのは難しいと悩む日々です。(小林)
- 僕は20代のころはコンタクトを着けていたのですが、ある知人の医師から「コンタクトはダメ。眼科医のほとんどは眼鏡をかけている」と言われたのをきっかけに眼鏡デビューしました。その医師も眼鏡をかけていたのですが、先日久しぶりに会うとコンタクトに変わっていました。なぜ?(中島)
- 2021年1月号より発行日が変更になります。これまで通常号は当該月1日でしたが、前月5日に変わり、12月は12月号と1月号の2誌が発売。1月号では、当社発行の【認知症 plus】シリーズの書籍プレゼント企画があるほか、2本の新連載もスタート！ご期待ください。(向山)

●発行所
(株)日本看護協会出版会
東京都渋谷区神宮前 5-8-2
日本看護協会ビル 4F(本社)
TEL 0436-23-3271(コールセンター:ご注文)
郵便振替 00190-8-168557
東京都文京区関口 2-3-1(編集)
TEL 03-5319-8019
<https://www.jnapc.co.jp>

●発行人 井部俊子
●編集長 向山恵美子
●編集者 中島祥吾、小林友美
●DTP 今村陽子、浜中葉子
●編集協力 青木茂美、石川奈々子、佐藤優子
●発行日 2020年12月1日
●定価 本体1,400円+税
●印刷所 図書印刷株式会社

●編集委員
岡島さおり、木下朋雄、佐藤美穂子
椎名美恵子、鳥海房枝、和田洋子
●アドバイザー委員
岩本大希、海老根典子、加藤希
熊谷靖代、塚田桂子、松木満里子
●表紙デザイン
白井新太郎
●本文デザイン
新井田清輝、佐藤忠、paper stone
齋藤久美子
●本文イラスト
狐丸
齋藤ひろこ(ヒロヒロスタジオ)
TOKUDOME

☆編集部へのご連絡は cc@jnapc.co.jp にいつでもどうぞ！ご感想をお待ちしております。